

「祈りの人ダビデ」

先にアブラハムの生きざまを通して祈りの大切さを見ましたが、ダビデもまた祈りの人といえます。彼は8人兄弟の末っ子であり、羊飼いでした。

神様は、羊飼いでしかなかったダビデを選び、イスラエルの王とされたのです。

ダビデは神の選びの器でしたが、彼ほど辛酸をなめ、苦勞した王はいないかもしれません。しかしダビデは、「私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない」（詩篇 16:8）と言いました。これこそ彼の人生の秘訣です。この信仰によって、ダビデは幾多の苦難をも乗り越えることができたのです。

今日の聖書の学びの要点

- ・私たちは試練に遭うが、その時こそ神様に見られている時だと知ろう。
イエス・キリストの十字架により赦された罪人である自分を、全く明け渡すことから、復活の主と対峙し、主と一つにされる事を体験したい。

I、荒野で主を喜ぶ

1、ダビデの後に編纂された詩篇に、ダビデが残した詩が多く記されています。 詩篇 63:6～7 を開いてみましょう。

①詩篇 63:6～7 はどのような時、詠われた詩篇でしょうか。

表題を見ましょう…ユダの荒野にいた頃

- ・三男アブシャロムが謀反を起こし、僅かの家来と共に王宮から裸足で命からがら逃げ出したという辛い経験の中でのことである。

②詩篇 63:4…ダビデはどんなに辛い中にでも、両手を挙げて祈る人でした。

③詩篇 63:6…これは王宮の布団の中ではなく、枯れ草の中に疲れた身を横たえた時です。彼は何と言っているのでしょうか。

④詩篇 63:7…その態度はどんな辛い迫害の中にあっても変わっていません。

Ⅱ、試練を受けない祈りの人はいない

1、偉大なアブラハムやダビデが造られた大きな要因は、様々な試練を通らされたことです。

* 試練の中で、信仰が養われ、祈りが深められました。

2、ヘブル 12：6, 7 を開きましょう。ここに神様の関心と私たちの関心の違いが記されています。

① 私たち人間の関心：祈りの結果

② 神様の関心：私たち個々の心、たましいにある

- ・ 私たちをどのように用いようか、どのように訓練しようかと考えておられる。
- ・ 私たちが霊的に成長することを楽しみにしておられる。

(モーセの荒野の40年の訓練の時、パウロも救われた後の荒野の3年間)

Ⅲ、義人の祈り「義人の祈りは働くと、大きな力があります」(ヤコブ 5：16)

1、自分は義人ではないから、力ある祈りができないと思っていないでしょうか。聖書は何と言っているのでしょうか。

① 聖書がいう「義人」とは：道徳的に正しい生き方をしている人ではない。

② Ⅱコリ 5:21：義人であるキリストが、私たちの全ての罪を十字架で負われた故に、私たちは義人となることができると、信じる人。

2、今の私たちの問題は何でしょうか。

① 全てをキリストにお任せして、キリストのために生きているか。

(Ⅱコリ 5:15)

② キリストの義によって覆われているからこそ、自分はあるのだと徹底して信じているか。